THE HIROSHIMA EDITION · SPECIAL FEATURE

内航海運の未来を、次世代の視点から。

参加人数　約90名

2026 全国内航海運青年経営者意見交換会 in 広島

2026.11.09 MON / **エディオンピースウイング広島** ⚽

今回の意見交換会の舞台となったのは、広島の新たなランドマーク「エディオンピースウイング広島」。
全国各地区の持ち回りで開催される本会において、今回の開催を担当した中国地方海運組合連合会（中海連）青年部が、関係各所との交渉・調整を重ね、スタジアムという特別な会場での開催を実現した。



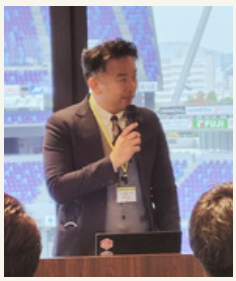
全海運青年部ＷＧ　渡邉慶太座長

開会挨拶



中国地方海運組合連合会(中海連)　岡本副委員長 / 渡邉委員長挨拶代読

はじめに、中海連青年部の岡本将治副委員長が、欠席された渡邉和寛委員長の挨拶を代読。全国からの参加者や開催関係者への感謝とともに、青年経営者同士の交流やつながりの重要性に触れ、本会が新たな視点や気づきを得る機会となり、今後の経営や内航海運業界の発展につながることへの期待が述べられた。



全海運青年部WG　渡邉慶太座長

続いて全海運青年部WGの渡邉慶太座長は、開催地の中海連青年部をはじめとする関係者に謝意を表した。今回のテーマ「人材」について、船員の確保・育成だけでなく、技術革新や将来の内航海運のあり方も見据えた幅広い議論の必要性を強調。参加者同士の交流や異なる視点からの発想を通じ、新たな気づきを今後の取組に生かすことへの期待が示された。

THE IDEAS /

育てる。そして、働き続けられる海へ。

基調講演

01 国立波方海上技術短期大学校の現状及び指導方法について

国立波方海上技術短期大学校 校長 切江淳二 氏

同校の教育制度や施設・設備、卒業生の進路及び応募状況について説明があった。座学と乗船実習を組み合わせた船員養成の取組に加え、寮生活を通じた協調性や規律の育成やSNS活用促進の取組、学生への指導方法などが紹介された。

02 次世代海技者の育成と定着について

WiTSEA PARTNERS Inc. 代表 川瀬雅勇己 氏

船員不足や高齢化、AI・自動化技術の進展などの環境変化を踏まえ、技術力に加えて判断力やコミュニケーション能力などの「人間力」を備えた人材育成の重要性が示された。また、産官学の連携による教育訓練体制や、働きやすさと働きがいの両立による人材定着の必要性が提起された。

GROUP DISCUSSION

「各社の船員確保対策と若年船員離職対策」をテーマに8班で討議。未経験者の採用・育成、休暇制度、船内環境、SNS発信など、各社の実践と課題が共有された。

グループ討議 / 各班の報告

A班

未経験者の採用・育成に関する取組や、船員確保に向けた各社の協力体制について意見交換が行われた。また、若年船員の定着には、給与面だけでなく、乗船・休暇サイクルの見直しなど、労働環境の改善が重要との意見があった。

B班

経験者の採用が難しくなる中、未経験者を積極的に採用し、自社で育成する取組が紹介された。また、離職防止に向けて、経験や資格の有無にかかわらない処遇のあり方や、働きやすい職場づくりについて意見が交わされた。

C班

若年船員の離職防止に向け、福利厚生や船内の生活環境の充実、世代間のコミュニケーション改善などについて意見交換が行われた。また、SNSを活用した職場情報の発信が、入社後の認識の相違を減らし、定着につながるとの報告があった。

D班

船員確保に向け、学校への出前授業や船舶見学会など、職業認知度の向上に向けた取組が紹介された。また、船内の労働環境や健康面への配慮、乗船・休暇サイクルの短縮など、離職防止に向けた取組について報告された。

グループ討議 / 各班の報告（続き）

E班

船員確保については、経験者の中途採用が難しくなる中、未経験者を積極的に採用し、社内で教育・育成する体制の整備が重要との意見があった。また、若年船員の離職防止に向け、乗船・休暇サイクルの見直しや、自らが働きたいと思える職場環境づくりの必要性が強調された。

F班

若年船員の離職防止には、乗船期間の短縮や休暇制度の見直しなど、労働環境の整備が重要との意見があった。また、経験者採用が難しい現状を踏まえ、未経験者を自社で教育・育成する体制づくりの必要性が指摘された。

G班

未経験者の積極的な採用と自社での育成、学校への採用活動などについて意見交換が行われた。また、SNSによる職場情報の発信や福利厚生の充実など、働きやすい職場環境づくりに向けた各社の取組が紹介された。

H班

学校訪問や人材紹介など、船員確保に向けた取組について報告された。また、離職防止には、個々の事情に応じた休暇取得への配慮や、船内の人間関係、通信環境の改善などが重要との意見があった。

講師による講評

切江校長からは、教員不足の現状や人材確保に向けた取組について説明があった。また、各社で未経験者の採用・育成が進められていることを踏まえ、教育機関としての支援のあり方を検討する必要性に言及された。さらに、企業による学校訪問や説明会が学生の就職先選択に影響することから、複数社による積極的な学校訪問を呼びかけられた。

川瀬氏からは、各班の発表を踏まえ、船員の定着には、会社や経営者が船員本人だけでなく、その家族も大切にする姿勢が重要であると述べられた。また、「船員の日」などを通じて船員への感謝や功績を伝えることが、仕事への誇りや働きがいにつながるとし、働きやすさと働きがいの両面から職場環境を整えることの重要性が強調された。

会議中の様子



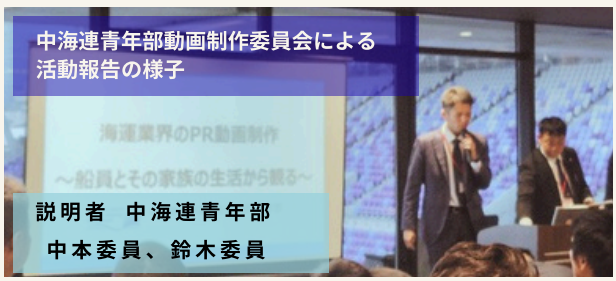
グループ討議中の様子



来賓
全海運正副会長



MC　中海連青年部
西本副委員長、横道委員



中海連青年部動画制作委員会による
活動報告の様子

説明者　中海連青年部
中本委員、鈴木委員

THE NEXT CHAPTER /

伝える力と、つながる力。

VIDEO PROJECT / 中海連青年部の活動

中海連青年部「動画制作委員会」から、内航海運業界の認知度向上を目的としたPR動画の制作構想について報告があった。

動画は「船員とその家族の生活」を題材に、船員の仕事内容やプライベートなど、リアルな日常を描く実写形式のショートストーリーを想定しており、若年層にも内航海運の仕事や生活をイメージしやすい内容を目指すものとされた。

また、内航海運業界全体で活用できる職業紹介動画とすることを基本方針とし、動画の長さは2〜3分程度、SNSを通じた周知を予定している旨の説明があった。

CLOSING ADDRESS /

次代を担う青年経営者へ

全海運　藏本由紀夫会長



藏本会長から、全国内航海運青年経営者意見交換会が現在の形に至るまでの35年間にわたる先人たちの活動と歴史を振り返るとともに、開催に尽力した関係者への謝意が述べられた。

また、内航総連の船員対策委員会委員長として、各班の意見を踏まえ、船員の確保における量と質、さらには定着率の向上が重要な課題であるとの認識が示された。これらの課題に対する内航総連の現在の取組について説明があったほか、若手経営者による新たな検討の場の設置など、今後の取組についても紹介があった。

最後に、個社では解決が難しい課題に対応するためには、業界団体としての組織的な活動が重要であると述べられ、引き続き課題解決に取り組む姿勢が示されるとともに、将来の内航海運業界を担う青年経営者の活躍に期待が寄せられた。

閉会挨拶



全海運青年部ＷＧ　永田桐哉副座長

最後に、全海運青年部WGの永田桐哉副座長から、開催関係者及び参加者への謝意が述べられた。また、今後の交流への期待が示された後、閉会が宣言され、本意見交換会を終了した。

意見交換会終了後には、エディオンピースウイング広島のスタジアム見学会が行われ、その後、懇親会が開催された。

語らいから生まれる、未来へのつながり。

中国運輸局次長 河合崇様より祝辞



全海運青年部WG 古中洋平副座長のご発声により乾杯！



MCは中海連青年部 沖井副委員長！



地区対抗けん玉大会を開催！



地区対抗代表者

全海運のけん玉名人決定！



九州地方海運組合連合会
大山瑞貴氏

次回開催地は宮城県仙台市！



全海運青年部WG（東北）湯村健吾委員

全海運青年部WG（関東）村松利樹委員

中締めは今年も全海運岡本信也副会長！



岡本副会長WITH 中海連青年部メンバー

翌日11.10(TUE)は、懇親ゴルフコンペを開催した。